

SMF「アート・素・パントリー」の二つの活動について

●ワークショップ「アートプラネットをみんなで作ろう！」

2023年10月9日(月)に「さいたま市子ども家庭総合センターあいぱれっと」のチャレンジパーク企画としてSMFの矢花俊樹さん(金工家)と加藤(造形作家)の二人で行った。

この施設は『子ども・家庭をとりまく様々な課題に取り組むとともに地域の子育てを総合的に支援する中核施設』を標榜している。

毎回のワークショップは自由なものの作りがねらいではあるものの、ゆるやかなテーマを設けて取り組むきっかけとした。実施するにあたり、まずは「アート・素」を充実させる必要があった。そこで「あいぱれっと」の関係者に提供をお願いしたところ、多様な素材をたくさんいただくことが出来た。それによって創作の幅も広がったように思う。



一方テーマの文言にある「プラネット」という漠然としたものを可視化すべく、強化段ボールをパズル的に組み合わせて直径120cmのジャイロコスコープ風な造形物を加藤の方で制作準備した。

当日は小学生18名(保護者も可)が参加した。中央テーブルに並べたたくさんの「アート・素」は子どもの創作意欲を大いに刺激してくれたようだ。

SMF「アート・素・パントリー」の活動についての経緯を少しお話しして開始する。素材から閃いたアイデアを順序立てて作っていくのはやはり中高学年で、低学年は素材そのものをシンプルに組み合わせた自由な造形物が多かったように思う。「プラネット」は作品完成間近にサプライズで倉



庫から引き出し、自分の作品を好きなところに置いてもらった。こうして単なる「プラネット」が「アートプラネット」に変貌！そして作品発表と観賞

へ。作品への想いがうまく言葉にならない子どもは矢花さんが的確にくみ取ってくれた。想定外の素材の活かし方にいつもながら感心する。

最後に、残った素材から持って帰りたいものを選び、素材名と選んだ理由を記入してもらった。



おみやげにいい香りの「ヒノキの防臭キューブ」を全員にプレゼント！「みんなで作ったアートプラネット」はその後、施設入口付近に数日間展示させていただき好評だった。この企画を通してご協力いただいたスタッフ、サポーターの皆さま、ありがとうございました。

●ワークショップ「アートフルゆめまつり2023」への参加

2023年11月5日(日)に「アートフルゆめまつり2023」の一環として「平成ひろば」で開催された「子どもゆめまつり」にテントで行う屋外ワークショップを前述の「あいぱれっと」同様SMFの矢花俊樹さん、加藤の二人で行った。

お祭りならではの飛び込み参加だけにどれだけ注目してくれるのか予想もつかず不安だったが、やはりたくさん並んだ素材が興味を引いたようで、子どもたちが群がり集まって来ると開始早々たちまち席が埋まってしまい、席を増やしたものの常にいっぱい状態が終了時まで続いたことには心底驚いた。参加人数を記録した結果お

よそ子どもは105人、大人は117人、合計222人だった。素材を自由に選択し思うがままの表現が許される場を創出することに大きな手ごたえを感じた秋の一日だった。

